

平成26年度上越市国語部 活動報告

部長 中野 英康 副部長 平山 良和
部員数 小学校 45名 中学校 27名 計 72名

1 研究主題 「国語の学力を高める授業の研究」

2 主題設定の意図

今年度の国語部の研究では、子どもの学力を高めるために、どのような工夫をすることが有効なのか？ これを授業で明らかにしていく。その視点として、

- できないことをできるようにするための工夫。
 - 分からないことを分かるようにするための工夫。
 - 学んだことを次の学習、次の活動へ生かせるようにするための工夫。
 - 授業が楽しい。明日の授業が楽しみだと思わせる工夫。
- このような視点を手掛かりにして、授業改善を図るための実践・研究を推進する。

3 研究の概要

11月12日(水)、上越市立教育センターとの共催で研究会を実施した。小学校部会、中学校部会に分かれ、それぞれの会場でスーパーティーチャーの卓越した授業を参観し、協議を行った。この研究会を中核として、研究の成果と課題をまとめた。

4 研究の実際(小学校の実践から)

授業者：上越市立明治小学校 寺島 元子 教諭

(1) 単元について

○単元名 第4学年「大養小・南川小4年生にホタルの学びを伝えよう」(教材名「アップとルーズで伝える」)



○単元の目標

- ・アップとルーズを対比し、長所と短所を読み取り、映像や写真が発信者の意図や目的に合わせて選ばれていることを理解する。
- ・伝えたい内容に合わせて選んだ写真を分かりやすく説明する文章を書く。
- ・写真を指し示しながら相手に伝わる大きさの声で話したり、聞き手の反応に合わせて答えたりしながら、ホタルの活動について発表する。

○授業の構想

- ・伝える相手を意識しながら、伝えたい内容を決め、写真の説明文を書いたり発表の練習をしたりする。
- ・アップとルーズの特徴を理解し、表現に生かす。

○成果と課題

今年度も昨年度に引き続きスーパーティーチャーの卓越した授業を参観し、協議を行った。寺島教諭の豊かな表情、児童をやる気にさせる語り、分かりやすい発問・指示等、教師の指導力の確かさを、授業参観によって学ぶことができた。

また、本時は「共同推敲」に重点が置かれており、書くことが苦手な児童にとって分かりやすい活動になっていた。

このように、授業構成の分かりやすさ、苦手意識をもった子どもへの優しい配慮、教師の指導技術等を学ぶことができた公開授業だった。

来年度以降は研究主題と小中分離型の形態の是非を検討しなければならない。日々の授業と学校研の研究が常につながっているような取組にしていきたい。